

新市立病院整備市長タウンミーティングにおける意見概要

会場：東生涯学習センター 地下1階 講座室

令和4年12月25日 午前10時開催

No.	ご意見・質問内容	回答内容
1	私自身が箕面市立病院へ入院した際、医師や看護師、療法士の連携がよくできており、健康を取り戻すことができた。新病院では施設・設備が新しく充実されることも重要だが、人材確保が最も大切であると感じている。	新病院においても職種間の連携を大切にした運営を行っていきます。人材確保については、再編統合により病床数、診療科を充実させることで医師等の人材確保の充実を図りたいと考えています。
2	移転には賛成であるが、市立病院に気楽に行きやすいというのはむしろ困る。かかりつけ医院から紹介を受けて市立病院で受診するというのが本来の役割分担である。指定管理者制度についても公立病院でも取り入れていく方向になっているので反対ではない。	地域のクリニックから安心して紹介できる、地域の中核となる公立病院を整備します。再編統合により指定管理法人の経営ノウハウを活かすとともに、大阪大学との親和性も重視した運営を目指したいと考えています。
3	分娩について、箕面市内の民間の産婦人科で対応できない場合、これまでは箕面市立病院で行っていた。阪大病院では費用が高額である。少子化の傾向があるからこそ分娩を継続し、アピールすべきだと思う。税金を投入してもいいので、産科医への給料を上げて医師を確保し継続できないか。箕面市立病院へ行けば安心して出産できると思われるように整備して欲しい。産婦人科が分娩診療を行わないと、マイナスイメージになると思われる。	市立病院の分娩件数は過去多いときで年間約1,200件ありましたが、令和3年度には年間約80件まで減少しています。市立病院の減少分は市内や近隣市の民間病院が担っているのが現状です。箕面市立病院の場合、大阪大学医学部から医師の派遣を受けていますが、大阪大学医学部としては、今後拠点を絞って派遣先を集約していく方針と聞いています。そのような状況で、市として分娩の取扱いを必須とはできないと考えていますが、指定管理者から医師を確保できるという前提で分娩を継続する提案があれば実施していきます。なお、その場合でも、大阪大学医学部附属病院や市立豊中病院でのハイリスク分娩、NICU（小児集中治療室）での受入れ等、機能分担は必要であると考えています。
4	民間病院と再編統合した場合、その病院がなくなってしまうと、その地域で診療を受けていたひとにとっては行き先がなくなってしまうのではないかと。通い慣れている病院は存続したほうが良い。	再編統合の目的は、箕面市、豊中市、池田市、吹田市、豊能町、能勢町で構成する豊能二次医療圏の中で、医療提供体制を最適化することであり、箕面市だけでなく、相手病院の地域も含めた二次医療圏全体で考える必要があります。
5	現地建替えでもできたのではないかと。	平成29年の市議会において、現地建替えか移転建替えか議論がされた結果、新病院の利便性等を考慮して、船場への移転建替えが決定されました。北大阪急行線の延伸により、新駅から約300mという近距離かつ雨に濡れずに来院できるというメリットがあります。病院関係者にとっても患者にとっても利便性に優れ、市民のために最適な場所で整備できます。また、これまで繊維産業を担うまちだった船場東地区は、今後箕面市、大阪大学、大阪船場繊維卸商団地協同組合と連携のうえ健康寿命ヘルスケアの拠点として好立地のポテンシャルを活かし、整備を進めます。
6	指定管理により経営がうまくいかなかった場合、医療にどう影響するのか不安がある。指定管理に移行することで現市立病院の多くの医師、看護師も退職するのではないかと。指定管理法人の運営になり今後経営が悪化した場合にどういった部分から切り捨てられるのか不安がある。また受診料が高くなるのではないかとということも不安である。	民間の病院でも、救急医療や小児医療といった、当院と同程度の機能を担う病院も多くあり、民間だから質が悪いということではありません。なお、市としても政策的医療に対してしっかりと財政支援を行い、市民の皆様へ質の高い医療を提供できるよう取り組んでいきます。また、診療報酬は、民間であっても公立であっても変わりません。
7	新型コロナウイルスへの対応により公立病院の役割は強まっている。市直営の公立病院であれば市の政策が直接伝わりやすいと思うが、その点はどうか。	新型コロナウイルスに関しては、公立病院、民間病院に関係なく必死で対応しています。民間だから対応しないということは決してなく、保健所とも連携を取り、対応にあたっています。
8	指定管理者の候補はあるのか。早く決めたほうが市民は安心できると思う。他市の指定管理になった公立病院は非常に満足されていると聞いた。候補はあると聞いたが、よく見極めて厳選して欲しい。	豊能二次医療圏内の病院へ調査したところ、指定管理による統合を希望している法人が複数ありました。今後、指定管理の導入に係る条例改正の議決後に、指定管理者を公募・選定しますが、厳正に進めていきます。

No.	ご意見・質問内容	回答内容
9	夜間救急の受入れ体制について、最近は新型コロナウイルスの影響もあり、入院するための空床がない、専門医が不在で受入れてもらえない、病院に到着してから別の病院への移送出発まで40～50分、長いときで90分かかったという声も聞いた。新病院整備にあたって、夜間救急の受入れ体制の強化や、感染症対策もふまえたレイアウトも検討しているか。	救急受入体制については、現市立病院では呼吸器内科、腎臓内科の専門医不在により受入れができないこともあります。新病院では診療科を新設することにより受入れ体制を強化します。また、入院の受入れが可能な空床がない場合もあり、再編統合により病床数を増床することで現状の267床のままよりも対応力は高まると考えます。感染症対策については、現在も発熱外来診察や新型コロナウイルスの専用病床は通常診療のエリアと隔離していますが、新病院では感染症対策のひとつである全室個室化や動線分離等も含めて設計に盛り込みます。
10	市民の関心は、指定管理運営になっても今まで通り公立病院としての医療が受けられるのかという部分だと思う。現在の箕面市立病院は市からの繰入れが他市と比較して少ないが、大阪府下で指定管理により運営されている公立病院では、市からの繰入れを受けているところもある。指定管理による運営状況のチェック機能として設置される附属機関は、医療費の他に駐車場の利用料金等についても評価するのか。新病院を運営していく中で、市民からの不平不満による改善要望が出た場合は市から繰入れ等の対応はするのか。指定管理への移行により、採算優先や市民への医療、サービスの質低下がないように運営して欲しい。	指定管理になってからも、公立病院として担うべき政策的医療に対し、市から財政支援は行いますが、それ以外の分野については、指定管理人によりしっかりと経営努力をしてもらうべきだと考えています。また、診療報酬は、民間であっても公立であっても変わりませんが、それ以外の部分の利用料金については市と法人で協議の上決定します。指定管理に移行した公立病院で、医師や病床、診療科の充実により好循環に転じたという事例が多々あり、箕面市立病院もサービスの質の向上が期待できる法人と統合したいと考えています。
11	今後、外国人労働者や旅行者の増加に伴い、外国人患者が増加することも考えられる。外国人に対する医療の課題としては「言葉の壁をなくすこと」、「相談体制の充実」であり、大阪府では電話による医療通訳を24時間体制で対応している。新病院の整備に当たっては院内案内図や問診票の多言語化、電話による通訳対応のさらなる設備強化、外国人の医療相談のための医療相談室等を整備して欲しい。また、外国人への配慮を条件に盛り込んで指定管理者を募集して欲しい。	箕面市内には87カ国、約2,950名の外国人が居住しています。現在、市立病院では多言語に対応できるボランティアのかたに協力いただいています。今後も多言語対応や外国人への相談体制の強化は必須だと考えていますので、新病院についても十分検討していきます。